



2025年3月期 第2四半期 連結決算概況

オリンパス株式会社 | 取締役 代表執行役 会長兼 ESG オフィサー 竹内 康雄 | 執行役 CFO 泉 竜也 | 2024年11月8日

- 代表執行役の竹内でございます。
- オリンパス株式会社「2025年3月期 第2四半期 決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

先般の代表執行役CEOの異動について

- 決算説明に移る前に、前代表執行役CEOのシュテファン・カウフマン氏に関する最近の事案について触れさせていただきます。
- 本日まずは、本事案により、多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、心よりお詫び申し上げます。
- 2024年10月28日にお伝えさせていただいた通り、カウフマン氏が違法薬物を購入していた旨の通報を受け、直ちに事実確認を行い、カウフマン氏が当社の行動規範、コアバリューそして企業文化とは相容れない行為をしていたと判断しました。捜査機関に対してこれを速やかに報告し、これまで全面的に捜査機関に協力してまいりました。また今後とも協力を続けてまいります。なお、捜査は継続しておりますので、お話できる内容には限りがございます。何卒、ご了承ください。今後開示すべき事項が発生した場合には速やかに開示いたします。
- カウフマン氏の辞任に伴って、私が当面の間CEOの役務を行い、当社の戦略の実行と、世界中の患者さんに不可欠な製品とサービス提供を継続し、経営理念に掲げている「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」に従って会社を率いていきます。
- 当社は違法薬物の使用に強く反対します。私たちは、行動規範や会社方針の周知徹底を目的として、経営層および従業員への教育を定期的の実施しておりますが、今後もこれを継続し、一層強化してまいります。
- また、経営層は、持続的成長に向けた長期的な戦略の実行に引き続き注力してまいります。

第2四半期連結業績

売上高

4,740 億円

+10% / **+3%**



ESD **+10%** / **+3%**



TSD **+10%** / **+3%**

調整後営業利益

851 億円

+186 億円

調整後営業利益率

17.9%

+2.5 pt

■ 前期比 円ベース為替込み
■ 前期比 為替影響調整後

- 1 北米は、消化器科、泌尿器科、呼吸器科の3つの注力領域全てで2桁成長。前期比+24%（為替影響調整後+15%）の成長を達成
- 2 販管費のコントロールなどが奏功し、調整後営業利益率は第2四半期累計で約18%、第2四半期で20%を達成
- 3 総合的な品質変革プログラム「Elevate」は、引き続き順調に進捗
- 4 米国を中心とした顧客からの底堅い需要と、引き続き不透明な中国の市場環境を踏まえ、期初から見通しを据え置き
- 5 米国・欧州におけるクラウド型AI医療機器¹の認可／認証取得、および米国におけるiTind¹の競争力のある保険償還率の設定は今後の成長を支えるものと期待

¹ 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

- 次に、第2四半期の連結決算説明に移らせていただきます。
- はじめに、当社の事業は、第1四半期に続き、第2四半期も堅調に成長しました。円安の追い風もあり、連結売上高は前年同期比10%の増収です。特に北米では、消化器科、泌尿器科、呼吸器科の3つの注力領域全てで2桁成長を実現し、前年同期比+24%の力強い成長を達成しました。
- 特に中国では、引き続き反腐敗運動や購入量ベース調達制度、現地での競争激化などのマイナスの影響があるものの、それを緩和する形で米国を中心とした顧客からの底堅い需要が全体的な成長を牽引しています。
- 調整後営業利益率は、第2四半期累計で約18%、第2四半期では経営戦略の財務ガイダンスに沿う20%を達成しています。販管費のコントロールなどが奏功しました。
- 総合的な品質変革プログラム「Elevate」は、米国食品医薬品局（FDA）に対するコミットメントに沿って、引き続き順調に進捗しました。次のスライドでこれまでの進捗と今後の見通しについて、ご説明させていただきます。
- 2025年3月期の見通しについては期初から変更はありません。事業環境は依然として不透明ではございますが、状況を注視しながら適切かつ迅速に対応し、期初の見通しの達成に向けて取り組んでまいります。
- 最後に、今後の当社の成長を支えるものとして2つのトピックをご紹介します。一つ目は、米国・欧州におけるクラウド型AI医療機器の認可／認証取得です。こちらは後ほど詳細をご説明します。二つ目は、2024年11月1日に米国メディケア・メディケイド・サービスセンターが2025年のメディケア医師診療報酬表 最終規則の中で2025年1月から有効となるiTindに特化した新たなCPTコードと償還率を確定したことです。適切な償還率が定められたCPTコードの適用により、iTind手技に対する医療提供者の請求と回収の体系的なプロセスが確立されるだけでなく、病院の外来、外来手術センター、診療所での治療が経済的に実現可能となり、前立腺肥大症の低侵襲治療を求める多くの患者さんが手技を利用できるようになります。

Elevateの主な進捗と見通し

現在

Elevateは引き続き順調に進捗

主な進捗



現在までにFDAに対するコミットメントの**95%以上が完了**



グローバルコンプレイントハンドリングプロセスの第1フェーズを完了



会津、日の出、八王子の拠点での**第三者による監査¹**を完了

¹ 外部コンサルタントによって実施される監査、独立した第三者による確認・検証およびFDA模擬監査

今後の計画

■ 2026年3月期

FDAに対するコミットメントを果たす予定



Elevateの次のフェーズへ

■ 2027年3月期以降

Elevateに関連する費用は減少。QARA組織の能力強化のため、一部は販管費に移管する見込み

- 当社は2024年3月期より複数年にわたる総合的な品質改革プログラムであるElevateを実行しています。Elevateは、2022年と2023年にFDAから受領した警告書を含めた規制当局に対するコミットメントを果たし、未来に向けて品質文化の基盤を強化するための取り組みであり、グローバルかつ機能横断型の強力なチームによって推進されています。
- これまでの進捗は良好であり、すでにFDAに対するコミットメントの95%以上を完了しています。重要なマイルストーンの一つであるグローバルコンプレイントハンドリングシステムの導入については、2024年10月にアメリカ、欧州、日本においてグローバルシステムへの移行を完了しました。中国や他のアジア諸国についても11月中に完了を予定しています。これにより、グローバルに一貫したコンプレイント処理プロセスを実現し、迅速に課題を特定して是正できるようになります。また、会津、日の出、八王子の各拠点における是正活動について、第三者による監査を行い、是正措置が適切に実施されていることを確認しました。
- 2026年3月期には、FDAに対する残りのコミットメントを完了し、品質システムの重点要素のさらなる改善と標準化に向けElevateの取り組みを次のフェーズに進めてまいります。それに伴い、2027年3月期以降はElevateに関連する費用は減少しますが、QARA組織の能力強化のため、一部は販管費に移管する見込みです。
- このElevateを通じて、規制要件を遵守するだけでなく、品質・患者さん第一、顧客中心主義という基本的な考え方をDNAにさらに刻み込んでいきます。私たちが常に卓越性と継続的改善の文化を体現することで、企業としての揺るぎない使命感をもたらし、競争優位性の向上にもつながります。

クラウド型AI医療機器の認可／認証取得により、 「インテリジェント内視鏡医療エコシステム」の実現へ前進

クラウド型AI内視鏡画像診断支援システム
について、1製品が米国FDA認可、3製品が
EU MDR認証を取得

✓ 内視鏡検査における臨床成果と業務効率の
向上に貢献する上で、重要なマイルストーン

✓ CAD搭載プラットフォームの商業化に向けて前進



CADDIE¹

大腸ポリープ用のクラウド型CADE²

- 大腸ポリープなどが疑われる病変の検出を支援（便利な機能として、CADDIEポリープ検出機能がオンで使用されていることをユーザーが確認する「盲腸到達通知」AI機能を含む）

✓ 米国 FDA 認可取得

大腸ポリープ用のクラウド型CADE² およびCADx³

- 大腸ポリープなどが疑われる病変の検出と診断を支援（便利な機能として「盲腸到達通知」AI機能と「粘膜洗浄度」AI機能を搭載）

✓ EU MDR 認証取得



CADU¹

潜在的な異形成検出をサポートするクラウド型CADE²

- 内視鏡検査におけるバレット食道の異形成を検出することをサポート
- データをリアルタイムで分析

✓ EU MDR 認証取得



SMARTIBD¹

潰瘍性大腸炎分析用のクラウド型機器

- 大腸内視鏡検査における潰瘍性大腸炎の状態のスコアリングを支援
- 大腸内視鏡で撮影したビデオフレームを処理し、組織の分類に有用なリアルタイムのインサイトを提供

✓ EU MDR 認証取得



¹ 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております ² Computer Aided Detection（AIによる検出支援） ³ Computer Aided Diagnosis（AIによる診断支援）

- 続いて、オリンパスが取り組む「インテリジェント内視鏡医療エコシステム」の商業化に向けた進捗の一つとして、欧州で医療機器規則（EU MDR）に基づくCEマーク認証を取得した3つの新しいクラウド型AI医療機器について、お話をさせていただきます。
- 2024年7月、オリンパスグループのOdin Medical社が開発した大腸内視鏡検査において病変の疑いがある部位を検出し、医師をサポートする内視鏡画像のコンピューター支援検出（CADE）システム「CADDIE（キャディー）¹」が、FDAより510(k)認可を取得しました。
- さらに、2024年8月には3つのAI医療機器が、EU MDRに基づくCEマーク認証を取得しました。大腸ポリープなどが疑われる病変の検出と診断を支援する「CADDIE¹」、内視鏡検査におけるバレット食道の異形成を検出することをサポートする「CADU（キャドゥー）」、そして大腸内視鏡検査における潰瘍性大腸炎の状態のスコアリング支援をする「SMARTIBD（スマートアイビーディー）」です。3製品とも独自のクラウド技術が応用されたAIアルゴリズムで、クラウド経由でリアルタイムにデータを解析したり、ソフトウェアを更新したりする機能を備えています。
- CADDIEの510(k)認可取得と3つのAI医療機器のCEマーク認証取得は、当社が内視鏡検査における臨床成果と業務効率の向上に貢献する上で重要なマイルストーンであり、CAD搭載プラットフォームの商業化に向けて大きく前進しました。

¹ 米国では、CADDIEは大腸ポリープが疑われる病変の検出を支援する目的でのみ認可されています。CADDIEには、CADDIEのポリープ検出機能がオンであり、使用中であることをユーザーが確認するための便利な機能として、「盲腸到達通知」AI機能が搭載されています。欧州では、CADDIEは「盲腸到達通知」AI機能および「粘膜洗浄度」AI機能を含む、大腸ポリープが疑われる病変の検出および診断を支援する機能が承認されています。

インテリジェント内視鏡医療エコシステム の実現に向けたロードマップ

現在

主な進捗：

- ✓ ロードショー¹と製品のデモンストレーションでは、顧客から心強いフィードバックを獲得
- ✓ 欧州で6カ所の共創センターを設置
- ✓ クラウド型AI内視鏡システムのパイロットプログラムを欧州で実施

¹ 2024年2月から10月にかけて、スペインとドイツで、関心のある見込み顧客や共同開発者を対象に実施。
今後もロードショーを継続します

今後の計画

- **2026年3月期第1四半期**
米国、EMEAの一部の国でAIソリューションの販売を開始予定
- **2026年3月期中**
EMEAの一部の国でインテリジェント内視鏡医療エコシステムの追加機能を販売予定

デジタル製品

CAD/AI

ワークフロー
管理

インサイト/
分析支援

資産管理

- インテリジェント内視鏡医療エコシステムについて、2025年3月期はさまざまな進捗があり、2026年3月期の商業化に向けた準備が順調に進んでいます。
- 最近のロードショーと製品のデモンストレーションでは、インテリジェント内視鏡医療エコシステムのビジョンや構成に関して心強いフィードバックをいただいています。
- 当社は、クラウド型AI内視鏡画像診断支援システムのパイロットプログラムを欧州の一部の医療機関で実施しています。この共創アプローチにより、当社のソリューションを実際の臨床現場で評価していただくことが可能となり、医療提供者と患者さんのニーズを満たすことができます。初期のソリューションに関して、顧客からは非常に良好なフィードバックをいただいています。
- そして、2026年3月期第1四半期には米国と欧州の一部の国で最初のAIソリューションの販売を開始し、2026年3月期中には欧州の一部の国でインテリジェント内視鏡医療エコシステムの追加デジタル製品も発売する予定です。
- AIサービスの成長が予想される中、オリンパスは医療の未来を創成するユニークな立場にあり、内視鏡、スコープをはじめとしたキャピタル製品、消化器科処置具をはじめとした消耗品、感染対策、サービスなど、内視鏡医療のあらゆる要素において、データと当社の強固なポジションを活用することで臨床成果と効率性を改善してまいります。
- そして、2020年代の終わりまでには、全世界の病院にインストールされている当社消化器内視鏡システムのうち40,000台にこのソフトウェアプラットフォームをつなげることを目標としています。
- それでは続いて、CFOの泉 竜也より第2四半期の業績概況についてご説明させていただきます。

2025年3月期 第2四半期累計実績 連結業績概況

- 1** 売上高：消化器内視鏡システム「EVIS X1」をはじめ、注力3領域で二桁成長を実現した北米が牽引。為替の追い風もあり、+10%成長
2 営業利益・調整後営業利益：前期に計上したVeran Medical Technologies社関連の損失の減少に加え、販管費のコントロールや為替の追い風もあり、大幅な営業増益。調整後営業利益率は累計で約18%（2Qで20%）を達成

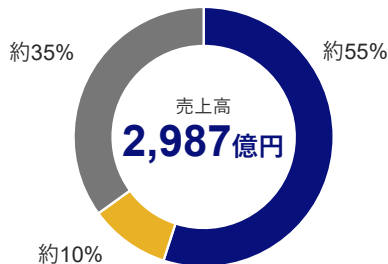
第2四半期累計実績（4-9月）						通期見通し（4-3月）	
1 継続事業	（単位：億円）	FY2024	FY2025	前期比	為替影響調整後	FY2025 通期見通し ※5月10日公表時より変更なし	進捗率
	売上高	4,316	4,740	+10%	+3%	10,090	47%
	売上総利益 （売上総利益率）	2,852 (66.1%)	3,230 (68.1%)	+13% (+2.0%)	+3%	6,910 (68.5%)	47%
	販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	2,185 (50.6%)	2,379 (50.2%)	+9% (▲0.4%)	+3%	4,940 (49.0%)	48%
	その他の収益および費用など	▲630	▲145	-	-	▲210	-
	営業利益 （営業利益率）	38 (0.9%)	705 (14.9%)	+1,772% (+14.0%)	+1,368%	1,760 (17.4%)	40%
	調整後営業利益 （調整後営業利益率）	665 (15.4%)	851 (17.9%)	+28% (+2.5%)	+4%	1,975 (19.6%)	43%
	税引前利益 （税引前利益率）	▲21 (-)	688 (14.5%)	- (-)	-	1,700 (16.8%)	40%
	当期利益	2,167	490	▲77%	-	1,210	40%
	親会社の所有者に帰属する当期利益	2,163	490	▲77%	-	1,210	40%

¹「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

- CFOの泉でございます。
- 私から2025年3月期 第2四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。
- 売上高は4,740億円と、為替の追い風もあり、前年同期比10%の成長となりました。
- 消化器内視鏡システム「EVIS X1」をはじめ、当社の注力3領域（消化器科、泌尿器科、呼吸器科）全てで二桁成長を実現した北米が牽引しました。
- また、単四半期および累計としても過去最高¹の売上高となりました。
- 営業利益は705億円と前年同期比増益です。前期に計上したVeran Medical Technologies社関連の損失の減少に加え、販管費のコントロールや為替の追い風もあり、大幅な営業増益となりました。
- 調整後営業利益は851億円、前年同期比で28%増加しました。調整後営業利益率は2.5ポイント改善し、17.9%でした。
- また、単四半期（7-9月）だけを見ますと、調整後営業利益率は20%と、経営戦略の財務ガイダンスを達成しています。
- このように今回の決算は為替の追い風を大きく受けておりますが、為替影響調整後ベースでも、売上高は3%の増収、調整後営業利益も4%の増益でした。
- 通期見通しは前回公表値より変更はありません。事業環境は決して楽観できる状況ではありませんが、引き続き期初の見通しの達成に向けて取り組んでまいります。

¹ 医療分野（内視鏡事業・治療機器事業）の売上高

2025年3月期 第2四半期累計実績 内視鏡事業



(単位: 億円)	FY2024 2Q累計	FY2025 2Q累計	FY2025 通期見通し	進捗率
売上高	2,709	2,987	6,450	46%
営業利益	509	626	1,620	39%
その他の収益および費用	▲78	▲89	▲125	-
調整後営業利益	587	715	1,745	41%
営業利益率 (為替影響調整後)	18.8%	20.9% (18.2%)	25.1%	-
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	21.7%	23.9% (21.2%)	27.1%	-

FY2025 vs FY2024 (4-9月)
売上高成長率

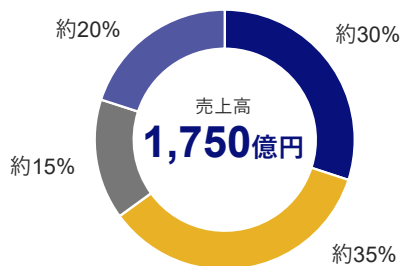
円ベース
為替込み

為替影響
調整後

■ 消化器内視鏡	9%	消化器内視鏡システム「EVIS X1」の販売が好調な北米で+44%の成長。一方、反腐敗運動などの影響により中国で減収。「EVIS X1」シリーズの売上割合は、消化器内視鏡の中で約25%	2%
■ 外科内視鏡	6%	中国で減収の一方、欧州で増収。外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」などが堅調に推移した結果、為替の追い風もあり、プラス成長	0%
■ 医療サービス	14%	保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上加え、新規契約の増加もあり、欧州・北米を中心に全地域でプラス成長	6%
合計	10%		3%

- 次に各セグメントの概況について、ご説明します。
- まず内視鏡事業です。売上高は前年同期比10%の成長でした。その他の収益および費用を除外した調整後営業利益は715億円と前年同期比で大幅増益、調整後営業利益率は23.9%と利益率も改善しています。
- 各領域の事業概況ですが、消化器内視鏡では、消化器内視鏡システム「EVIS X1」の販売が好調な北米で+44%の成長となりました。一方、反腐敗運動などの影響により中国で減収となりました。
- 外科内視鏡では、中国で減収の一方、欧州で増収となりました。外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」などが堅調に推移した結果、為替の追い風もあり、プラス成長となりました。
- 医療サービスでは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や新規契約の増加などもあり、欧州・北米を中心に全地域でプラス成長となりました。

2025年3月期 第2四半期累計実績 治療機器事業



(単位: 億円)	FY2024 2Q累計	FY2025 2Q累計	FY2025 通期見通し	進捗率
売上高	1,597	1,750	3,630	48%
営業利益	▲285	268	545	49%
その他の収益および費用	▲547	▲58	▲75	-
調整後営業利益	261	327	620	53%
営業利益率 (為替影響調整後)	-	15.3% (13.8%)	15.0%	-
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	16.4%	18.7% (17.2%)	17.1%	-

FY2025 vs FY2024 (4-9月) 売上高成長率

円ベース 為替込み

為替影響 調整後

	円ベース 為替込み		為替影響 調整後
■ 消化器科処置具	10%	■ 北米や欧州を中心にプラス成長。肝胆膵疾患（内視鏡的逆行性胆道膵管造影術(ERCP)製品など）製品群などの売上が増加	4%
■ 泌尿器科	14%	■ 北米や欧州を中心に好調に推移。尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」や前立腺肥大症(BPH)用の切除用電極の売上が増加	6%
■ 呼吸器科	14%	■ 北米や欧州を中心にプラス成長。超音波気管支鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)で主に使用される処置具や超音波気管支鏡が好調に推移	6%
■ その他の治療領域 ¹	▲1%	■ 他社製品の取り扱い終了の影響を受けた日本などで減収	▲7%
合計 ¹	10%		3%

¹ 他社製品の取り扱い終了の影響を考慮した場合、その他治療領域の円ベースの成長率は+6%、為替影響調整後の成長率は0%。治療機器事業の円ベースの成長率は+11%、為替影響調整後の成長率は+4%

- 治療機器事業です。売上高は前年同期比10%と成長しました。その他の収益および費用を除外した調整後営業利益は327億円と前年同期比で大幅増益、調整後営業利益率は18.7%と内視鏡事業同様に治療機器事業の利益率も改善しています。
- 各領域の事業概況ですが、注力3領域である、消化器科処置具、泌尿器科、呼吸器科の全ての領域で、北米や欧州を中心にプラス成長となりました。
- 消化器科処置具では、肝胆膵疾患の製品群などの売上が増加しました。
- 泌尿器科では、尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」や前立腺肥大症用の切除用電極の売上が増加しました。
- 呼吸器科では、超音波気管支鏡ガイド下針生検で主に使用される処置具や超音波気管支鏡が好調に推移しました。

連結財政状態計算書

- 1 現預金の減少と為替影響（396億円）により、資産が減少
 2 借入金の返済等により、社債および借入金が減少（9月末時点の残高：2,455億円）

（単位：億円）	2024年3月末	2024年9月末	増減額		2024年3月末	2024年9月末	増減額
流動資産	8,003	6,571	▲1,433	流動負債	4,317	4,196	▲121
現金及び現金同等物	3,409	2,459	▲951	社債および借入金	700	1,149	2 +449
棚卸資産	1,900	1,878	▲22	その他の流動負債	2,999	2,509	▲489
非流動資産	7,339	7,096	▲243	非流動負債	3,453	2,440	▲1,014
有形固定資産	2,600	2,495	▲105	社債および借入金	2,296	1,305	2 ▲991
無形資産	920	895	▲25	資本	7,572	7,031	▲541
のれん	1,803	1,712	▲91	自己資本比率	49.4%	51.4%	+2.0pt
資産 合計	15,342	13,666	1 ▲1,676	負債および資本合計	15,342	13,666	▲1,676

- 2024年9月末の財政状態です。
- 資産合計は前期末比1,676億円の減少となりました。
- 現預金の減少と為替影響（396億円）によるものです。
- また、借入金の返済等により、有利子負債すなわち社債および借入金が減少しており、9月末時点の残高は2,455億円となりました。
- 自己資本比率は前期末比で2.0ポイント増加し、51.4%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

- 1 FCF：前期はエビデントの譲渡があったため、FCFは前年同期比で大きく減少しているものの、特殊要因を考慮した調整後FCF'は393億円のプラス
- 2 財務CF：自己株式の取得による支出等や借入金の返済、配当金支払を主要因に、1,567億円のマイナス

第2四半期累計実績（4-9月）

(単位：億円)		FY2024	FY2025	増減
継続事業	税引前利益	▲21	688	+709
	営業キャッシュフロー（営業CF）	▲118	937	+1,055
	投資キャッシュフロー（投資CF）	4,127	▲300	▲4,427
	フリーキャッシュフロー（FCF）	4,009	637	▲3,372
	調整後フリーキャッシュフロー（調整後FCF）	177	393	+216
	財務キャッシュフロー（財務CF）	▲1,254	▲1,567	▲313
	現金および現金同等物期末残高	4,882	2,459	▲2,423

2024年3月期 第2四半期累計（4-9月）の主な特殊要因

営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払	▲567億円
投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領	+3,879億円
投資CF：エビデントに対する貸付金の回収	+520億円

¹「その他の収益・その他の費用のうちキャッシュイン、アウトしたもの」、
「M&A関連支出」、「構造改革関連支出」を調整

2025年3月期 第2四半期累計（4-9月）の主な特殊要因

営業CF：エビデントの譲渡に関する法人税の還付	+290億円
営業CF：社外転進支援制度の引当金取崩しによる支出	▲18億円
営業CF：Veran Medical Technologies社の撤退に関わる支出	▲12億円
投資CF：投資有価証券の取得による支出	▲85億円
投資CF：条件付対価の決済による支出（Odin Medical社、Arc Medical Design社等）	▲30億円
投資CF：整形外科事業の譲渡に伴う収入	+52億円
投資CF：買収解除に伴う買収対価の戻り	+47億円

- キャッシュフローの状況です。
- 前年同期にはエビデントの譲渡による影響が含まれているため、一見キャッシュフローが大きく減少しているように見えますが、特殊要因を調整したフリーキャッシュフローは前年同期と比較し改善しております。項目ごとに見ていきます。
- 営業キャッシュフローは、937億円のプラスとなりました。税引前利益の増加に加え、法人所得税の還付等により前年同期比大幅な増加となりました。
- 投資キャッシュフローは、300億円のマイナスとなりました。主な要因は、有形固定資産および無形資産の取得による支出です。
- フリーキャッシュフローは、637億円のプラスです。事業取得、譲渡、再編など特殊要因を考慮した調整後のフリーキャッシュフローは393億円のプラスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、1,567億円のマイナスとなりました。自己株式の取得による支出等や借入金の返済、配当金の支払いを行ったことが主要因です。
- 結果、2024年9月末の現金および現金同等物残は2,459億円となりました。



- 私からの説明は以上です。ありがとうございました。

参考資料

開示の変更点

整形外科事業の譲渡に伴い、2025年3月期より、その他事業に含まれていた整形外科事業を非継続事業¹として開示「報告セグメント」²を内視鏡事業と治療機器事業の2区分に変更（国際会計基準）

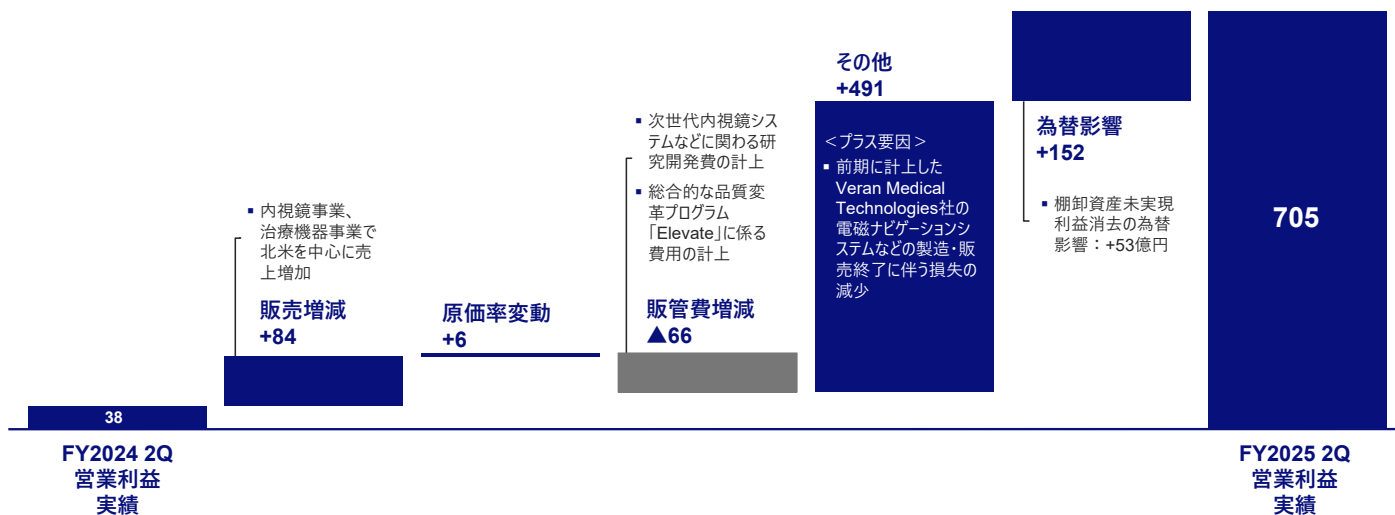


¹ 当中間連結会計期間において、当社は、PTCJ-6Oホールディングス株式会社及びPTCJ-6Fホールディングス株式会社（ボラリス・キャピタル・グループ株式会社が設立した特別目的会社、以下「ボラリス・キャピタル・グループ」と総称します）に対して、オリンパスアルモバイオマテリアル株式会社及びFH Ortho SAS社から構成される整形外科事業を譲渡することについて、ボラリス・キャピタル・グループとの間でプット・オプション契約を締結しました。これに伴い、当中間連結会計期間より、整形外科事業に関わる損益を非継続事業に分類しており、前中間連結会計期間についても同様の形で表示しています。なお、売上高、営業利益、調整後営業利益、税引前中間利益、継続事業からの中間利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、中間利益及び親会社の所有者に帰属する中間利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。なお、上記のプット・オプション契約に基づき、整形外科事業については、2024年7月12日に譲渡を完了しました

² IFRS8.5-10「事業セグメント」の要件を満たすセグメントの内、集約基準(IFRS8.12)、量的基準(IFRS8.13)を考慮して決定されたセグメントを指します。これらの基準に基づき、当社グループは、従来「内視鏡事業」「治療機器事業」及び「その他事業」の3区分を報告セグメントとしていましたが、当中間連結会計期間より報告セグメントを「内視鏡事業」及び「治療機器事業」の2区分に変更しており、前中間連結会計期間についても同様の形で表示しています

2025年3月期 第2四半期累計実績 連結営業利益増減要因

第2四半期累計実績（4-9月）



(単位：億円) * 本スライドでは継続事業の金額を表示しています。また、「その他」には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

プロダクトパイプライン：内視鏡事業（2024年11月8日時点）



2025年3月期の内視鏡事業における重点施策

- グローバルにおいて、消化器内視鏡システム「EVIS X1」の更なる拡販に注力
- キヤノンメディカルシステムズとの協業により、次世代超音波内視鏡システムを市場に提供。欧州、日本、アジア・オセアニアを皮切りにグローバル展開を見込む
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化
- 外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」の米国（2025年3月期末）及び中国（2026年3月期）での導入を目指し、市場競争力の向上を図る
- インテリジェント内視鏡医療エコシステムのコンセプト及び一部関連製品を欧州で展開予定

2025年3月期
売上高成長率（見通し）

10%

円ベース

6%

為替影響調整後

現在の主力製品	直近の新製品 / 発売予定の製品	中長期のパイプライン
消化器内視鏡 ■ EVIS X1 ■ EVIS EXERA III（米国、欧州） ■ EVIS LUCERA ELITE（中国） ■ EU-ME3（欧州、日本、アジア・オセアニア） 外科内視鏡 ■ VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能（米国、中国） ■ VISERA 4K UHD（米国、中国） ■ VISERA ELITE III（欧州、日本、アジア・オセアニア）	消化器内視鏡 ■ 超音波画像診断装置Aplio i800 EUS（米国、欧州、日本、アジア・オセアニア） ■ EU-ME3（米国） 外科内視鏡 ■ VISERA ELITE III（米国） FOCUS AREA インテリジェント内視鏡医療エコシステム ¹ を初めて導入（欧州）	消化器内視鏡 ■ シングルコース十二指腸内視鏡 ■ EU-ME3（中国） 外科内視鏡 ■ VISERA ELITE III（中国） FOCUS AREA インテリジェント内視鏡医療エコシステム ¹

¹開示上、インテリジェント内視鏡医療エコシステムの業績は外科内視鏡に分類されます 注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

プロダクトパイプライン：治療機器事業（2024年11月8日時点）



2025年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科処置具

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイスなど主要カテゴリーにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser Systemにより、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 肺がん分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

2025年3月期
売上高成長率（見通し）

8%

円ベース

4%

為替影響調整後

現在の主力製品

消化器科処置具

- Visiglide
- ESD Knife
- EndoJaw

泌尿器科

- レゼクト電極、ESG-410
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System（米国、欧州、アジア・オセアニア）

呼吸器科

- シングルユース気管支鏡（米国）
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム
- EVIS X1 気管支鏡（日本、欧州、アジア・オセアニア）

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科処置具

- 3製品（米国）
- 3製品（欧州）
- 1製品（日本）
- 2製品（中国）

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡（米国、アジア・オセアニア、日本）
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System（日本）
- iTind（米国、欧州、アジア・オセアニア）
- 4Kカメラヘッド（米国、欧州、アジア・オセアニア、日本）
- VISERA S（米国、欧州、アジア・オセアニア、日本）
- レゼクト電極（中国）
- 硬性尿管鏡（中国）

呼吸器科

- 新超音波気管支鏡（米国、中国）
- EVIS X1 気管支鏡（米国）
- 超音波プロセッサ（欧州、日本、アジア・オセアニア）

中長期のパイプライン

消化器科処置具

- シングルユース胆道鏡
- 超音波内視鏡検査用吸引生検針
- 新止血クリップ

泌尿器科

- 膀胱鏡
- レーザーシステム

呼吸器科

- 細径超音波気管支鏡
- EVIS X1 気管支鏡（中国）

注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

2025年3月期 四半期実績 連結業績概況

四半期実績（7-9月）										
継続事業	（単位：億円）	FY2024 2Q	FY2025 2Q	前期比	FY2024 1Q	FY2024 2Q	1Q vs 2Q	FY2025 1Q	FY2025 2Q	1Q vs 2Q
	売上高	2,266	2,392	+6%	2,050	2,266	+11%	2,348	2,392	+2%
	売上総利益 （売上総利益率）	1,497 (66.0%)	1,668 (69.7%)	+11% (+3.7%)	1,356 (66.1%)	1,497 (66.0%)	+10% (▲0.1%)	1,562 (66.5%)	1,668 (69.7%)	+7% (+3.2%)
	販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	1,114 (49.2%)	1,191 (49.8%)	+7% (+0.6%)	1,071 (52.3%)	1,114 (49.2%)	+4% (▲3.0%)	1,188 (50.6%)	1,191 (49.8%)	0% (▲0.7%)
	その他の収益および費用など	▲571	▲46	-	▲58	▲571	-	▲99	▲46	-
	営業利益 （営業利益率）	▲189 (-)	431 (18.0%)	- (-)	226 (11.0%)	▲189 (-)	- (-)	275 (11.7%)	431 (18.0%)	+57% (+6.3%)
	調整後営業利益 （調整後営業利益率）	382 (16.9%)	478 (20.0%)	+25% (+3.1%)	283 (13.8%)	382 (16.9%)	+35% (+3.1%)	372 (15.9%)	478 (20.0%)	+28% (+4.1%)
	税引前利益 （税引前利益率）	▲219 (-)	424 (17.7%)	- (-)	198 (9.7%)	▲219 (-)	- (-)	264 (11.2%)	424 (17.7%)	+61% (+6.5%)
	当期利益	▲240	344	-	2,406	▲240	-	146	344	+136%
	親会社の所有者に帰属する当期利益	▲243	344	-	2,406	▲243	-	146	344	+136%
非継続事業										

¹ 「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

2025年3月期 第2四半期累計実績 その他の収益および費用

第2四半期累計実績（4-9月）

(単位：億円)		FY2024	FY2025	増減
その他の収益		14	29	+15
主な収益科目		和解に伴う、中国生産子会社に対する訴訟の引当金の戻入13（全社・消去）		
その他の費用		642	174	▲467
主な費用科目		- Veran Medical Technologies社関連損失 496（治療機器） - FDA関連対応費用¹ 119（内視鏡、治療機器） - 総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る一時的な費用 110（内視鏡、治療機器） - 社外転進支援制度の実施に伴う特別支援金等の費用 28（内視鏡、治療機器、全社・消去）		

¹ 現在は総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る一時的な費用としています * 本スライドでは継続事業の金額を表示しています

キャピタルアロケーション

方針

- ☑ 成長ドライバーへの優先的な投資
- ☑ 安定的かつ段階的な増配
- ☑ 機動的な自己株式の取得

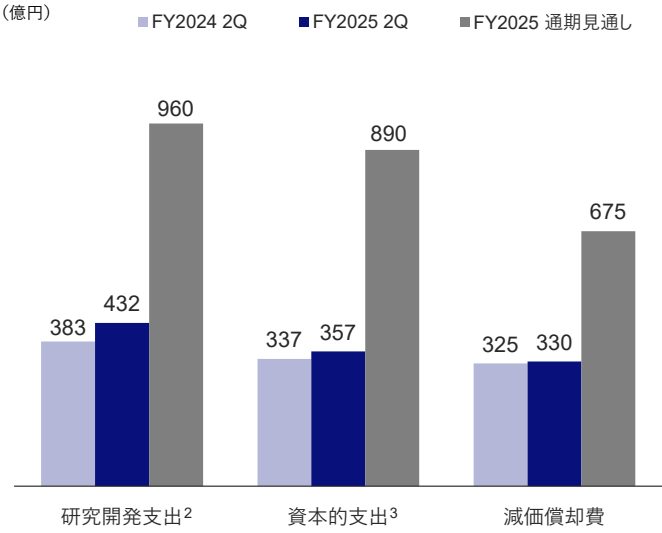
FY2025

- ☑ 注力3領域への積極的な投資
- ☑ 年間配当は2円増の20円を予定
- ☑ 1,000億円の自己株式の取得を実行中（10月末実績：累計約798億円）



投資実績推移および2025年3月期 通期見通し

第2四半期累計実績（4-9月）および通期見通し¹



(単位：億円)	FY2024	FY2025
研究開発支出 ² (a)	383	432
開発費資産化 (b)	60	69
損益計算書上における研究開発費 (a-b)	323	363

(単位：億円)	FY2024	FY2025
償却費	42	39
	2024年6月末	2024年9月末
開発資産残高	622	600

¹ 本スライドでは継続事業の金額を表示しています
² 研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています
³ 資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2024 2Q：69億円、FY2025 2Q：80億円、FY2025通期見通し：140億円)

為替レート及び為替感応度

☒ 通期見通しの前提となる為替レートは変更無し

為替

(単位：円)	FY2024 1Q	FY2024 2Q	FY2025 1Q	FY2025 2Q	FY2025 見通し
円／ドル	137.37	144.62	155.88	149.38	151
円／ユーロ	149.47	157.30	167.88	164.01	163
円／人民元	19.56	19.94	21.48	20.82	21

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	26	5
ユーロ（1円あたり）	16	5
人民元（1円あたり）	52	27

*上表の数値は継続事業の金額を表示しています。また、為替感応度（年間）はFY2024Q4実績より算出しています

略語集

略語	英語	日本語
BPH	Benign Prostatic Hyperplasia	前立腺肥大症
EBUS-TBNA	Endobronchial Ultrasound-guided Transbronchial Fine Needle Aspiration	超音波気管支鏡ガイド下針生検
ERCP	Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography	内視鏡的逆行性胆道膵管造影術
ESD	Endoscopic Submucosal Dissection	内視鏡的粘膜下層剥離術

2025年3月期 四半期実績 リンク先

☒ 2025年3月期 四半期実績（7-9月）は決算参考資料よりご確認ください

項目	URL
連結決算概要	https://www.olympus.co.jp/ir/data/brief/pdf/02_data_Q2FY2025_jp.pdf#page=2
セグメント別情報-医療・ESD・TSD	https://www.olympus.co.jp/ir/data/brief/pdf/02_data_Q2FY2025_jp.pdf#page=3
セグメント別情報-全社消去	
投資他	https://www.olympus.co.jp/ir/data/brief/pdf/02_data_Q2FY2025_jp.pdf#page=6
連結キャッシュフロー計算書	